

# イマヌエル教報

2022. 2

1947年7月1日第三種郵便物認可 2022年2月5日（毎月5日発行）

イマヌエル総合伝道団

No.907

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

## あわれみを受けさせてください

総務局長 寺村 秀嗣



「ああ、主よ。どうかこのしもべの祈りと、喜んであなたの名を恐れるあなたのしもべたちの祈りに耳を傾けてください。どうか今日、このしもべに幸いを見させ、この人の前で、あわれみを受けさせてくださいますように。」（ネヘミヤ書一章11節）

第22次総会から1年が経ちました。新型コロナウイルス感染症が始まってからは2年が経過し、3年目もその影響は続くことが予想されます。あと2年は続くという声も聞かれますので、場合によってはこの総会期の終わりで、教会また教団の営みはコロナ対策と並行する形で続いていくのかもしれない。これは、速やかな日常の回復を願う私たちには明るいニュースではありませんが、これからの忍耐の時間が続くと考え、力を奪われていくような気もします。このような現状を受け止める時、長びく捕囚の時代を生きたユダヤ人に思いを寄せることができます。

ユダヤ人はペルシアのキュロス王の時代、エルサレムに帰る道が開かれ、困難の中で神殿を再建しました。しかし、元の状態に戻ったわけではなく、時代が下ってアルタクセルクセス王の治世になっても、ユダヤ人はなおも捕らわれの民でした。その一人、王に仕えるネヘミヤにもたらされた知らせは、神殿の再建が果たされて七十年も経つのにエルサレムの城壁は崩れたまま手つかずの状態、民は困窮の中に生きているという辛いものでした。この知らせを受けてネヘミヤがさげた祈りには、主の約束にすがりながら、主が耳を

傾けてくださることを切に願い、期待する思いが満ちています。ネヘミヤはこの後、ぶどう酒を杯に注ぐ席で王に城壁再建の志を告げ、王はその願いを聞き入れますが、ネヘミヤの祈りの中では権威あるアルタクセルクセス王も「この人」と呼ばれるほどかすんだ存在でした。ネヘミヤにとって願いを聴き、実現して下さる方は主なる神でした。神殿再建の時と同様に、城壁の再建もまた困難を極めますが、その中で主にあわれみを乞い続けるネヘミヤの姿は痛々しいほどです。やがて主が示してくださったあわれみは城壁の完成というかたちに現れました。それでも再建されたエルサレムはソロモン時代の栄華には遠く及ばず、捕囚以前の元通りの状態には届かなかったようです。しかし、ユダヤ人が捕らわれていた時代に、会堂（シナゴグ）というそれまでにはなかったものが生まれ、神の民としての心を取り戻し育てる場ができました。それはアルタクセルクセス王を通してなされたことよりも強い影響を神の民に残しました。

主はネヘミヤが願った祈りを超えて働かれました。私たちは今日も切なる思いで回復を祈ります。しかし主のあわれみは私たちの祈りの熱も勢いもすべて覆い尽くします。主は今私たちに長い忍耐の道に召し、その忍耐の中で形を変えながらも主を礼拝し、福音に生き、育つ道へと導いておられます。主が示されるあわれみは私たちの予想を遙かに超えて深く広いのです。主のあわれみを受けたいと願います。

### 目次

- あわれみを受けさせてください……寺村秀嗣……1
- 年会への備え、雪国からの報告、とにキャン……2
- 新年聖会(関東4教区、中京教区)、4支援献金……3
- 海外トピックス、国内教会局コラム、思い巡らし……4
- 北日本ブロック近況と祈りの課題、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

# Immanuel

## 第77次年会に備える

祈りから始まる年会に  
2回の年会準備祈禱会に  
ぜひお加わりください

教団代表 岩上祝仁

会の時だからこそ、共に語り合い、分かち合い、祈り合う機会を持ちたいと計画しています。

また、2日目午前には、組織改革検討チームからの提言を受け取り、共に祈りたいと願っています。また教団の働きを理解し、祈っていただくためにテーマ別フォーラムを開催予定です。特に兼牧の事例についての報告や今後の多くの先生方の高齢化に伴って地域教会をどのように運営して行くのかなどを念頭に話し合っていました。

また、後半では、今後の希望が宣教・育成にあることを覚え、そのために共に重荷を分かち合いながら、心を合わせて祈るプログラムを、いま計画中です。

年頭に「祈りによらなければ」と教報誌上で、群れを挙げて祈ることに取り組むことができればと書かせて頂きました。今年は神に期待し、神に叫び、祈り続ける群れでありますように。具体的には年会に向けてオンラインでの年会準備祈禱会を2月14日(月)午後と3月14日(月)夜の二回にわたって開催し、祈りの備えをもって年会を迎えます。

今年(水)の2日間、オンラインで開催します。3年連続のオンライン開催となりました。第77次年会の営みは議事会・聖会・宣教会・任命式は時間の制限はありますが変わりなく行います。同時にオンライン年会では、年会の大切な要素の一つである研鑽・交わりが大きく損なわれていることに危機感を覚えます。ですから1日目の夜にはオンラインによる先生方の交わりと祈りの時をグループに分かれて行う予定にしています。年

今年(水)の2日間、オンラインで開催します。3年連続のオンライン開催となりました。第77次年会の営みは議事会・聖会・宣教会・任命式は時間の制限はありますが変わりなく行います。同時にオンライン年会では、年会の大切な要素の一つである研鑽・交わりが大きく損なわれていることに危機感を覚えます。ですから1日目の夜にはオンラインによる先生方の交わりと祈りの時をグループに分かれて行う予定にしています。年

現状を打破する主の恵みと聖霊の働きが私たちの群れに与えられますように。良い意味で私たちが時代に即した変化を遂げることができ、人々に届け言葉で福音を語り、宣教の働きが進められますように。そのためにこの年会が用いられるように。群れを挙げて、心を合わせて祈りましょう。

## 東北教区主事から……

厳しい寒さの雪国のために  
お祈りを感謝します

秋田教会 神谷光一

秋田では、この時期の風物として「かまくら」が取り上げられるほど、豪雪の印象がありますが、これは県内有数の豪雪地で行われている行事であって、教会の立地は海に近く、海風が吹く関係から積雪量はそこまでのものではなく、屋根の雪下ろしをする必要もありません。

しかし、今回は年末から新年にかけて寒波が続く、雪質もサラサラのものが続くと「ホワイトアウト」と呼ばれる地吹雪による視界不良の危険があります。これは見通しが良く、周囲に遮るものがない場合、こうした現象が顕著で、特に高速道路等で重大な事故を引き起こすことが報告されています。

また今回は、そうした寒波の中にも、急激な気温の緩みから、積もった雪が解け始め、普段からしつかり除雪されている道路はともかく、残った雪はシャーベット状になり、路面は制動の効かないぬかるみへと一変します。さらに、

そうして緩んだ雪が再び急な冷え込みによって、最も危険な「アイスバーン」の状態となり、今度はスリップや転倒によるトラブルに注意しながら、人も車も、氷の上を進むように細心の注意を払わなくてはなりません。

教会でも、一時に多くの雪が降り積もった場合は、注意して駐車場の除雪を行います。踏み固めれば歩行や車の出入りに支障のない程度ですと「やれやれ」といった気持ちで働くため、そのままになることがあります。その後、こうした急な気温の緩みから、雪がすべて解け切らずに残った場合、大量の水分を含んだ雪は、わずかに見えても駐車場はぬかるみ状態となり、またその重さは尋常なものではなく、普段の何倍もの労力が必要となります。それまでの除雪の甘さを後悔するのはこういうときです。

さらに、これが冷え込みからアイスバーンとなると、これは人力ではもう取り除けられず、再び気温が緩むか、さらなる積雪によって氷が覆われるまでは要注意の状態となります。

感謝を挙げれば、こうした雪にまつわる作業を通して、しばしば氷点下の中でも全身汗だくとなり、疲れはあるものの、体調はそれ以前より良好となります。(作業後、机に向かい、学びや教会事務ほか、祈っているうちに、うっとりとした夢ごちになるのは常ですが……)多くのお祈りに感謝しつつ。

## 中高生課から……

今年の「とにキャン」は  
3月29日にオンライン  
フェスティバル開催

中高生課 細田恒太郎

中高生という貴重な6年間のうち、既に2年間でコロナ禍という特殊な状況の中で過ぎていきました。

その間、とにキャン関連の活動はオンラインに限定される形で継続されてきましたが、その中でも新たなつながりが与えられ、この交わりの中に加わる方々、またこの交わりから、青年課へと送り出す方々が与えられていることは感謝なことです。背後での尊いお祈りに心から感謝いたします。

今年も春(3月29日)にとにキャンフェスティバル(Zoom)が、計画されています。

とにフェスは、コロナ前は各地域毎の交わりを中心として進められてきましたが、とにキャンでの熱い交わりを再び温めるため、コロナの有無に関わらずオンラインを用いて全国での交わりを軸とすることが決定されました。今年も教育局長の小川宣嗣師を講師としてお迎えし、また海外の宣教師方にもご協力を頂いて楽しい交わりの時を持ちたいと計画しています。ぜひ中高生の健全な信仰の成長のために祈りください。

関東4教区合同新年聖会

# オンラインでの開催で この時代にこそ、 キリストと共に

越谷教会 川村和臣

うめいてくださる。そして弱い私たちの歩みを助けてくださる。③主の希望と勝利に生きる(28、37)。主は問題や悲しみがあっても、私たちを導き、その主権をもって圧倒的な勝利を与えて下さる。私たちは一つとなり、完成を目指して歩もう。

●聖会Ⅱ「痛みを通してキリストを伝える」(ヨハネ四・34、38) 多様性の時代、また人々が痛みを感じているこの時代。痛みを通してキリストの愛と恵みを伝える

去る1月10日(月・祝日)、今年関東新年聖会がオンライン(YouTubeによる配信)で開催されました。講師は岩井基雄師(清瀬福音自由教会)。「この時代にこそ、キリストと共に」というテーマで2回の聖会が行われました。聖会Ⅰ、Ⅱのメッセージの要旨は次の通りです。

●聖会Ⅰ「うめきを、真の希望に変えて下さる主」(ローマ八・27、30) コロナ禍、大きな問題は交わりの分断。分断はうめきを生む。神はこのうめきを大きな希望に変えてくださる。そのために三つの招きを学ぶ。①主への祈りと明け渡し(23、25)。神は御霊を通じて私たちを完成に導かれる。私たちがうめきは自分の願いからのうめきであることが多い。しかし、私

主の助けととりなしの力(26、27)。聖霊はその完成を求める私たちの願い、祈りを助け、ともに

②主の愛を届ける。私たちが主の背後には主イエスや多くの人々の犠牲、痛みがある。主は私たちにのために、一粒の麦となつてくださった。 この年、主イエスの使命に私たちも生きようと力強く語られました。年頭、聖書から励ましと新たな挑戦を受けることができました。

中京教区新年合同礼拝

# ゴールに向かって オンラインで5つの教会 を繋ぎ、主にある交わりを

豊田教会 高山清和

1月2日、2022年最初の礼拝を献げました。5つの教会の兄弟姉妹と一緒に、主を賛美し主のみことばに耳を傾け、主と共に新しい一年を出発しました。

5教会をネットで繋いで集会を持つのはこれが初めてではなく、昨年の中京聖会から始まりました。当初はすべての教会に配信設備が整っていたわけではなかったので、中京聖会を機にそれぞれの教会の実情に合わせて設備を整えることになりました。配信のための環境整備や技術的サポートを教区で行い、必要なら機材の購入費を教区から支援する体制も整えました。

毎年行われています中京教区の新年聖会を今年も新年合同礼拝の形で持ちました。礼拝とは別に聖会を設けることも検討しましたが、より多くの方々と恵みを分かち合いたいと願い、また普段聖会に出席することの難しい方も礼拝で一緒に出席できますから、礼拝と聖会を一つにして取り組んでみました。結果的に恵み多き集会となり、行って良かったと心から感謝しています。

5つの教会がまるで一つの教会であるかのような雰囲気味わうことができました。新年聖会、中京聖会、教区内交換講壇、折々の交わりなどを通して、これからの教区という主にある家族の恵みを分かち合っていきたいと願っています。「見よ、なんとという幸せなんという楽しさだろう。兄弟たちが一つになって、ともに生きることは。」(詩篇一三三・1)

当日は午前10時30分より、名古屋教会がホストとなりZoomで5教会を繋ぎました。名古屋、岐阜、四日市、豊田の教区4教会とチャーチ・オブ・ゴッド春日井栄光教会の5教会です。賛美の後、各教会の牧師年頭挨拶、内山勝牧師による説教「ゴールに向かって」(黙示録二一・1、8)、応答の祈

り、賛美、頌栄、祝祷と通常の礼拝の形を維持しながら、年頭にふさわしい集いとなり御名を崇めました。時代がどんどん変化する中で信仰者のゴールは神の国にあることを再確認でき感謝でした。 会堂で礼拝を献げた方は5教会で計104名、オンラインでの出席は32件でした。コロナ禍で会堂に集まるのが難しい方々ともオンラインで繋がることのできることは幸いです。礼拝の最後に各教会の会堂に集まった方々の様子を分かち合う時を持ち、皆で手を振りながら挨拶を交わし、礼拝に集えたことを喜び、感謝しました。

## 教団の働きを支える

# 4つの支援献金 「一握りの粉で」

総務局 北田直人

現在、教団の働きを支える4つの支援献金を行っています。ぜひこの機会にお加わりください。

▼神学院サポート献金は、神学院の運営、施設の維持管理などにために用いられています。

▼国内宣教献金——以前は「開拓宣教資金献金」という名称で、次々に開設される教会を支援するために用いられてきました。現在は厳しい状況で戦う各教会の活動や牧師の生活の経済支援のために用いられています。

▼世界宣教献金は宣教師の生活活動のために用いられています。

▼厚生資金献金は引退牧師の退職金や月々の支援金給付のために用いられています。

これらの必要を覚え、これまで献げてくださった方々に感謝いたします。教団から各教会に送付されている文書に「コロナ禍により経済的に厳しい教会も多いのではないかと拝察いたします。ご事情に応じて可能な範囲でご協力くださいれば幸いです」と記されていることを心に留めつつ、これらの必要のために新規に支援して下さる方々が起こされたならば幸いです。(1列王二七・14)

必要を覚え、これまで献げてくださった方々に感謝いたします。教団から各教会に送付されている文書に「コロナ禍により経済的に厳しい教会も多いのではないかと拝察いたします。ご事情に応じて可能な範囲でご協力くださいれば幸いです」と記されていることを心に留めつつ、これらの必要のために新規に支援して下さる方々が起こされたならば幸いです。(1列王二七・14)

国内教会局から

コロナ禍にある教会  
もう一度忍耐を働かせて

年が改まり新型コロナ第6波の渦中、繰り返しされる感染拡大によって、私たちの信仰生活も教会の営みも忍耐することの必要性を痛感します。では、忍耐を働かせる力はどこから生み出されるのでしょうか。聖書



「愛は：すべてを耐え：すべてを忍びます。」(1コリント一三・4〜7)と語るように、愛こそ忍耐の原動力です。これは信仰の成長が遅く、歩みがおぼつかない私たちに對する主の愛ゆえの忍耐を思えば、まったくその通りだと思えます。愛を原動力とする忍耐は困難で光が見えない所にも希望を生み出し(ローマ五・3〜4)、さらに「忍耐を働かせる」なら「成熟した完全な者」へと、きよめ

(阪下謙)

■アパルトヘイト撤廃に尽力したツツ元大主教が死去  
南アフリカでアパルトヘイト(人種隔離)の撤廃に尽力し、1984年のノーベル平和賞を受

■米国で「無宗教」増加、キリスト教減少続く  
米世論調査機関ピュー・リサーチ・センターが12月14日、キリスト教徒が多数を占める米国で、「無宗教」の成人が2007年の16%から29%に増えたとする調査結果を公表。調査は今年5〜8月に約4千人を対象に実施。それによると、自身をキリスト教徒と回答した人は63%で、07年の78%から大幅に減少。米国人の宗教観に関する調査で「無宗教」との回答がカトリック教徒や福音派を上回って23・1%を占め、初めて首位に立ったのは19年、イースタン・イリノイ大学のライアン・バージ氏が、総合的な社会状況調査を新たに分析した結果。



海外トピックス

主教を歴任し、86〜96年にケープタウン大主教。キリスト教の立場に立った非暴力の反アパルトヘイト運動を推進。黒人解放運動を進めてアパルトヘイト撤廃の原動力となったネルソン・マンデラ元大

■末期でない患者が安楽死  
AFP II時事通信によると、南米コロンビアのビクトル・エスコバルさん(60歳)は1月7日、末期症状に苦しむことなく、自ら人生に幕を引いた。エスコバルさんの安楽死は裁判所の画期的な判断に基づくもので、死の直前に撮影した動画が公開された。

■アパルトヘイト撤廃の原動力  
コロンビアは97年に自殺ほう助を非犯罪化し、昨年7月には高等裁判所が「尊厳ある死の権利」を末期疾患の患者以外にも適用を拡大することを認めた。(平瀬聡樹)

統領と並ぶ国民統合の象徴的存在だった。シリル・ラマポーザ大統領はこの報を受け「南アの解放を後世に残した」と業績を称賛した。

この物語は、自分は価値がないと生きていたレアについてです。レアはヤコブと結婚しましたが、それは父親の欺きによってです。物語が進むうちに、レアの期待は痛みと失望へと変わりました。私達も、同じように考えます。最高の人と出会い、欲しいものを手に入れば、人生は完成される。レアは、ヤコブの愛を受ければ、完全な人生だと思っていました。31節、「主はレアが嫌われているのを見て」ここで、初めて神様が登場します。主は、レアの悲しみを見られ、息子を与えられました。

みことばの  
思い巡らし  
愛されていない者への愛

創世記29:16~35



WGM宣教師  
ブランドン・久芳

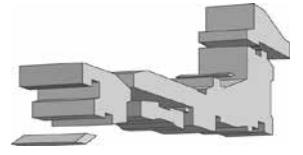
レアは「主は私の悩みをご覧になった」と告白、絶望と虚しさから「今こそ、夫は私を愛するでしょう」と言いました。レアがヤコブの子を産むことによって、その愛情を得ようとしていますが、レアの叫びを聞かれましたが、たとえ、レアが3人の息子を産ん

でもヤコブの心は変わることはありませんでした。ターニングポイントとなったのは、35節です。「彼女はさらに身ごもって男の子を産み、『今度は、私は主をほめたたえます』と言った。それゆえ、彼女はその子をユダと名づけた。」ここで、レアはヤコブから目を離し、神様だけが自分を完全にしてくださると知りました。レアの価値は彼女の生きる社会、文化、周りの人達に決定されるものではありません。レアの価値は、彼女を見ておられ、叫びを聞かれ、何よりも愛しておられる神様から与えられます。神様だけが、レアの人生を満たすことができるお方です。そして、今、レアは神様をほめたたえています。

聖書を読むと、ユダは、イスラエルの偉大なダビデ王の先祖となりました。更に、そのユダ部族から、イエス・キリストが誕生します。神様は、私たちが他者の評価や、人生の成功、他の何かで満たすことをやめる時、驚くべきことをなされます。その時、主の大きな愛と満たしに気づくからです。この世界はレアを価値のない、愛されない可哀想な女性と見るでしょう。しかし、神様は救い主イエス様が誕生した血筋だと見えています。

この物語は、自分をレアだと思っておられる方に良い知らせとなります。私達に必要なのは、私自身を愛してくださる主の愛を確信し、そこで憩うことです。

# 国内教会局 スクエア



## 北日本ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

細田恒太郎

今冬は年末年始と寒波が続き、例年以上の積雪となつている教会が多くあります。教会と先生方のお身体の為お祈りください。

\*

### ■北海道地区

《釧路教会》太平洋側に位置する釧路では、雪はそれほど多くありません。地域食堂「丘の上食堂」の第一回目が行われました。

《札幌教会》今冬は、昨年と比べ積雪量が大幅に増えています。昨年11月からフェイスブックでのライブ配信を継続しつつ対面での礼拝を再開しました。

《恵庭教会》新年早々、大雪が降り、元旦は朝から除雪に追われ、礼拝時刻にもずれ込みました。また11日の夜からは、更に2倍の大雪が降り、連日、早朝から除雪に追われる毎日です。YouTubeでメッセージの配信を始めました。

### ■東北地区

《大湊教会》例年よりも雪が多い日が続く中、対面での礼拝は継続され求道者も来会しています。

《青森教会》年末年始から、大雪のために除雪の日々でした。《十和田教会》クリスマスから新

年にかけて、12日間連続での除雪作業となりました。大寒時くらいの雪山が既に新年の時点で積み上げられています。

《盛岡教会》雪と寒さは今のところ例年並みです。ひろ子師はお祈りに支えられ、副作用と付き合いながら日常生活を送っています。

《秋田教会》年末以降、アイスバーンが多くなり、教員が転倒骨折しました。美津子師は除雪の疲労により腰を痛められました。

《山形教会》年末年始は大雪のため、除雪が間に合わず、遠方の方には「ETC」で礼拝を守って頂きました。

《鶴岡白山教会》年末から今年の頭にかけて除雪車での除雪が2回業者（人力）に依頼しての除雪が4回ほどありました。教会員の手助けにより教会HPが作成されました。

《仙台教会》ウッドショックの影響を受けていますが引き続き会堂建設に取り組んでいます。

《郡山教会》クリスマス礼拝には野田秀師を通してZoomを用いた特別集会が持たれました。また同日、洗礼式も持たれました。

### ■北関東地区

秋には北関東聖会をYouTube配信で実施。教区の有志教会による合同CSオンライン集会を夏とクリスマスに行い恵みを頂きました。

《宇都宮教会》コロナ禍にあつて短縮礼拝と自宅礼拝がなされています。

《高崎泉教会》教会の外看板修理が無事なされました。週報や印刷物を家庭に届けたりと、工夫しつつ礼拝が守られています。

《上田教会》救われた方や長期間会堂にいられていない方を対象に雑談会（Zoom）を始めています。

《鴻巣教会》感染者が多い時期は集会を中止し、毎週礼拝のCDと週報を作成し、家庭での一斉礼拝を守りました。

《北本教会》集会は感染対策をして継続しています。屋根の防水工事なども行うことができました。

《大宮教会》駐車場としてお借りしていた土地が献げられ、昨年末所有者移転登記が無事終了しました。

《浦和教会》内外装の大規模リフォームが実施されています。

《蕨教会》時間を短くしながら対面での礼拝が継続されています。

《鶴ヶ島教会》対面での礼拝を継続しつつYouTubeでのライブ配信が始まりました。

《越谷教会》Zoomを用いながら礼拝や聖書の学び会が実施されています。また近隣教会と協力して青年集会が春と秋に持たれました。



## 天上の別れの曲

だれでも知っている唱歌「ちょうちょう」は、「長調」らしい、明るく楽しい曲で長調を代表するような曲です。一方で童謡「赤い靴」は、悲しさや切なさがこみ上げてくる「短調」の代表的な曲です。どこか胸を締め付けられるような悲しい気持ちになります。さて、シヨパン作曲の「別れの曲」と言えば、どなたも、きつと耳にしたことがある曲だと思いませんか。皆さんは、この「別れの曲」は短調・長調のどちらとかわかりますか。▼正式な曲名は「練習曲作品10 第3番 ホ長調」です。ドイツ映画「別れの曲」がその愛称の始まりとのことですが、格別に日本ではすっかりこの愛称が定着しています。その哀愁漂う「別れの曲」は、実は「長調」なのです。ある音楽番組でこのことが取り上げられていました。二人の音楽家にアナウンサーが話しを向けました。すると、「明るくて悲しい」それがこの曲の魅力。「辛い別れを受諾している曲」「別れを受け止めているから長調で書いたのではないか」「別れを受諾して自らを手放して行く……」などなど、興味深い話しが始まりました。▼私

は、この解説を聞きながら聖書のある場面がはつきりと浮かんできました。「わが神よ、私はあなたのみこころを行うことを喜びとします。あなたのみおしえは私の心のうちにあります。」（詩篇四〇・8）その新約聖書における解説はこのように記されています。ですからキリストは、この世界に来てこう言われました。「あなたは、いかにえやささげ物をお求めにならないで、わたしに、からだを備えてくださいました。全焼のささげ物や罪のきよめのささげ物をあなたは、お喜びにはなりませんでした。そのとき、わたしは申しました。『今、わたしはここにきております。巻物の書にわたしのことが書いてあります。神よ、あなたのみこころを行うために。』」（ヘブル書一〇・5-7）▼この御父と御子の天上における別離の場面こそ「別れの曲」そのものではないでしょうか。主イエスの受肉、御父の御心を成し遂げる十字架への道、「その別離」こそ主イエスの喜びなのです。この「天上の別れの曲」は間違いなく「長調」です。それは喜びと栄光に帰結する別れなのですから。（國光勝美）

巻頭言

目を上げて畑を見なさい



世界宣教局  
野田 禎

教会総会を越え、新たな歩みがスタートいたしました。イエス様がサマリアで一人の女の人と出会い、福音を語られました。そしてこの女の人の証言に



広げた翼

Immanuel  
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

よって多くのサマリア人がイエスを救い主として信じました。その時イエス様がおっしゃっているのが冒頭のお言葉です。(ヨハネ四章35節)  
弟子たちはまさかサマリアで、こんなにも多くの人が主を信じるとはと驚くことになりました。  
弟子たちは、最初はなぜイエス様が伝道の困難なサマリアに入っているのかと不思議に思っていたと思います。弟子たちには、難しい、心が固い人たちと思えても、一人の女の人の心には「キリストと呼ばれるメシア」を求める心が与えられていました。「目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるはかりになっています。」(35節)と言われた弟子たちは、イエス様がおっしゃる

意味が最初は分からなかったと思います。なぜなら、現実には収穫まで4か月もあるのに、色づいて収穫をするばかりと語られたからです。  
しかし、このサマリアの地で一人の女の人が救われ、その証しによって、多くのサマリア人が「救い主を見た」と告白するようになった時、弟子たちは、やっと人が救われるのにふさわしい時期は「いつも」であると気づいたことでしょう。  
イエス様のように、「救われるばかり」の人たちを見ることができたら幸いです。またイエス様がサマリアの地にあえて入って行って神様の恵みを伝えられたように、私たちが、難しい、無理だと思える地や人たちのところに近づくことができたら幸いです。  
海外におられる宣教師のお祈りの課題を祈り、日本の教会の私たちも同じように目を上げて畑を見互いに祈り合えたら幸いです。  
ウエスレアン・ミッションのロビン・ホワイト宣教師は「漫画だったら心を開いてくださる、多くの色づいている人々に」とビジョンが与えられ、何人ものクリスチャンアーティストとともに漫画ミニストーリーをしてもらいます。  
私たちも、この漫画ミニストーリーが「サマリア」の地への伝道に繋がることを期待し、祈りたいと思います。ホワイト宣教師の作品は、世界宣教局のホームページをご覧ください。



CAMBODIA

カンボジア

蔦田緑乃\*2022年1月8日

「あなたがたのうちにキリストが形造られるまで、私は再びあなたがたのために産みの苦しみをしています。私は今、あなたがたと一緒にいて、口調を変えて話せたらと思います。あなたがたのことで私は途方に暮れているのです。」(ガラテヤ4章19、20節)  
この御言を異邦人宣教の最後にパウロが祈りとしてガラテヤ教会宛てに書き送った気持ちがあはれしと伝わって来る、今年のひと月目が過ぎました。と同時にパウロの産みの苦しみはまた、聖霊が私の内にキリストの御形が成るための産みの苦悩である事を思い巡らしつつ、本年の聖句として受け取らせていただきました。  
昨年末に持つはずの定例スカイプミーティングは、案じていた通り、彼らの年末の諸行事、地方巡回旅行等々により叶わずに越年、1月の第1週に。最初はグレッグ師との会見、一日置いてヴァンデイ師と。報告された事柄の詳細

は紙面の都合上書ききれませんが、KCCにとって、発足以来11年の歩みを吟味し、必要な路線転換の有無を語り合う時が来たことが報告されました。マーク宣教師が今度こそ入国できるように祈りつつ、彼の帰りを待つて1月末にこの会議を開く予定ですので、お祈りくださいとの報告でした。  
すでに先月号で御報告済みの、ヴァンデイ師とグレッグ師の働きの分野の変更が決定し、昨年のクリスマス礼拝から動き出しました。しかし問題は、ヴァンデイ師の教会とPPC(グレッグ師の教会)の距離が余りにも離れているために会場をどこにするかが課題となりました。神様がこの事にどう解決を与えてくださるかが、動かされねばならない大きな石(マルコ16章1-4節参照)として前に置かれています。この石が取り除かれてプリンペン市にKCC教会が建て上がるよう「信仰の祈り」を「学び得たり」と証しできる日を待ち望みつつ、主を仰いで前進したKCCのために祈りをもつて支えていただきたいと、お願いを込めて御報告されました。  
クリスマス礼拝にはヴァンデイ師の息子ダビデ君が説教者たるお父さんの横に立ち、クメール語で主の御聖誕の箇所を朗読したそうです。これはヴァンデイ師にとり最高の感謝で、ダビデ君の生涯が主の御用のために整えられつつある事の証し、印として御名を崇めつつ報告されました。

最後にお祈りいただきたい事は、ヴァンディ師によると、カンボジアへの入国は4月末か5月の初めには大丈夫という態勢となり、オミクロン株以外の菌が出ない限り、入国が許されるとの事でした。入国までにPCR検査が無事に通過できるよう、またウイルスビザの取得等の手続きの一切が手落ちなくできますよう、地の利的に入り方が不便な神栖での動きの一切に、また健康のためにも主の御同行と御助けが確かでありますように、お祈りをいただけましたら幸いです。



**KENYA**

**ケニア・テヌウェク**

薦田就子\*2022年1月6日

引き続き感染率減少傾向にあつたため、感染防止に配慮しつつも、2年ぶりに対面式・泊りがけの宣教師の教区会が持たれました。私が主任不在中に感染して勤務に穴が開いてはいけませんので、主任不在中は特に、ある程度感染防止に配慮されている集いも極力欠席してまいりました。教区会も大事をとつ

て、オンラインで会議だけ参加するべきか迷いましたが、いろいろ限界が来ていたこともあり参加を決めました。数年前からの宣教師団体の指導で現地の運転手さんを頼み、自分で運転せずに道中寝られたのは感謝でした。寝ていない時は、数十年前にテヌウェク病院におられ、今回中期宣教師として来られている同乗者のR宣教師との楽しいお交わりもありました。途中ナクルで無事に必要なダイアリーも購入できました。

翌日の会議は昼食までには終わり、お交わりや休息の時間も十分にあり、霊肉ともにリフレッシュの時をいただきました。例年より一日早く始まった分、帰宅の翌日が日曜日で、再出勤前にひと息入れられた事も感謝でした。

その日の夜、両目の下が腫れて、翌朝には顔全体が腫れあがっていました。午後から急に両腕に発疹が出てきたので受診。原因は不明ですが何かのアレルギー反応だろうと薬を頂きました。すぐに薬が効き腫れも2日ほどで引き、その間ひどいかゆみなども起きなかったのは感謝でした。

翌日。先週あたりからスタッフの中でも新型コロナウイルスの検査が陽性という報告が相次ぎました。手術室だけでも1日で5人以上が診断され、対応に追われる中、先日の教区会に往復同乗していたR宣教師が体調不良で調べてみたら陽性だったと連絡が入りました。それで私も2回検査を受けましたが、

感謝な事に私は2回とも陰性でした。日本からのお祈りに守られたと感謝でした。

同じ週のうちに院内スタッフの陽性者数が80を超え、日本へ緊急の祷告課題として報告させていただきました。徐々に緩められていた規制が再度締め直され、予定していた手術室でのクリスマスのお祝いも直前で中止。用意していたギフトは翌週に配布、日本からの献金で与えられた二〇二二年版の一日一頁のデイポーションの本は皆に感謝され、日本の皆さまによりろしく、との事でした。

感謝な事もたくさんありました。病院中がこの状況なので、柔軟な対応に医師からの協力が得易かつた事。ほとんどのスタッフが病欠のスタッフのカバーを引き受けてくれた事。卒業・資格取得前までの数か月の空き期間に経験のため無給で加わっていた女性が、進んでクリスマス勤務を引き受けてくれた事。例年、年末年始は忙しくなる事等を考慮して予定手術が極端に減らされていた時期だった事。そして奇跡的に緊急手術が信じられないほどに少なかった事。陽性と診断され、自宅待機中のスタッフに重症化の報告がなかった事。引き続き主任が不在上に不確定要素満載の勤務表作成もなんとか終了でき感謝でした。

1月の第一週にはほとんどの手術室スタッフが元気になって復帰しましたが、まだ数人、自宅待機中のスタッフがいます。感染症対策しつつ、さまざまと予想される事態への賢明な対応など、課題は山積みの中にあります。各科で納得、一致した対応が取れるように、お祈りください。



**TAIWAN**

**台湾**

久保光彦・せきな\*2022年1月7日

12月に入ると台中の街中でもあちこちにクリスマスのイルミネーションを見かけるようになりまし。珍しいところでは地域のいろいろな神々を祭つてあるような祠にもイルミネーションが賑々しく施されているものもありました。教会よりも立派で派手なイルミネーションを見かけることは決して珍しいことではないように思います。しかし本場のクリスマスの意味を知りながらこの時期を過ごしている人の数が多いわけではありませぬ。この時期特に祈らされることです。

まだまだ新型コロナウイルスの影響が世界規模で続いています。台中教会ではアドヴェントの礼拝を対面で行うことが許され、感謝なことでした。毎週みことばとともにクリスマスへの心備えをするものが許されました。

クリスマス・イブの日には、ウクレレの演奏を交えながら、静かなイブの夜の集会を持ちました。クリスマス・イブの集会を前に、ウクレレチームに名前を付けることになり、ヨハネの福音書1章9節から「希望之光」という名前になりました。すでに2度ほど対外的な演奏奉仕をしています。これからの演奏を通して主の救いによつてもたらされる「希望の光」に導かれる方が起こされるように、今後の活動のためにも覚えてお祈りいただければ感謝です。

また、26日には子ども礼拝のクリスマスを持ちました。段ボールで作ったガチャガチャ、磁石の魚釣り、輪投げ、バルーンアートなど、盛りだくさんのアトラクションとクリスマスの聖書のお話を、お友だちと楽しむことができました。

12月の半ばころから、海外から台湾に戻る方の中で新型コロナウイルス感染者数が増えてきています。国内もほぼゼロが続いていますが、時折感染者の報告もなされています。今後国内での集団感染などが再発することのないようにお祈りいただければ幸いです。

台湾での宣教師としての生活も半年以上経ち、少しずつ慣れてきています。皆様のお祈りのおかげで家族も大きな病気をすることもなく守られています。新しい年の

# IWF 宣教師紹介

ザック・マッツ&知子宣教師



新年、おめでとうございます。マッツ・ザックと知子です。

2020年末の帰国時にはパンデミックの影響に驚きました。巡回生活も複雑でサポート集めも随分と遅れています。

コロナワクチンの入手までは教会訪問を控え、昨年の夏から再開しましたが、教会ごとの異なる対策やマスクの着用、ワクチン接種に対する強い抵抗もあり、実際の訪問までは様子が分からないことが殆どです。11月の教会訪問後、ザックの陽性反応には落ち込みましたが、小さなアパートにあっても知子と娘は守られ、感謝でした。

2021年は課題の多い年でしたが、主の示してくださる道に目を向けて前進して行きたいと願っています。

皆様のお祈りに感謝します。

「主はあなたに告げられた。人よ、何が良いことなのか、主があなたに何を求めておられるのかを。それは、ただ公正を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩むことではない

か。」  
今年もコロナ禍でのクリスマスが無事に過ごすことができませんでした。ロザリス教会でのクリスマス礼拝、そして礼拝後には昨年にはできなかった愛餐の時間が守られました。ウェスレアン聖書大学の職員とその家族による年末感謝会も学校の食堂で開かれ、小礼拝、証し会、交わりの時間が与えられました。折しも、日本でもフィリピンでもコロナのオミクロン株感染者が増加傾向にあるときで、年末・年始にかけて8万6千人ほど感染者が増加しました。

今年半ばに、希乃実の第2回目のワクチン接種のために宣教車でのマニラに向かい無事に終えることができました。恭子の甲状腺のためにもお祈りいただきありがとうございます。クリニックの主治医がコロナに感染したため検査結果が出た後しばらく診察できない状態が続いていましたが、主治医も回復され、久しぶりにクリニックで診察を受けることができました。甲状腺の腫れも引いているというので、3月まで経過観察することとなりました。

今年でサバティカルリーブ（長期休暇）を終え、新年より第4期の働きを開始します。早速、常喜は1科目（預言書）の担当を任ざられて新学期に望みます。子どもたちはホームスクールの学びが継続されます。第4期の働きのために引き続きお祈りご支援のほどよろしくお願いいたします。

働きがさらに祝されますようお祈りください。 ■



## PHILIPPINES

### フィリピン

豊田常喜・恭子\*2022年1月10日

か。」  
(ミカ書六章8節)

マニラに向かい無事に終えることができました。恭子の甲状腺のためにもお祈りいただきありがとうございます。クリニックの主治医がコロナに感染したため検査結果が出た後しばらく診察できない状態が続いていましたが、主治医も回復され、久しぶりにクリニックで診察を受けることができました。甲状腺の腫れも引いているというので、3月まで経過観察することとなりました。



#### ■会計報告12月分

宣教献金 四、四三三、〇七三円  
月平均 一、七四五、一四八円

#### お祈りの課題

##### 台湾（久保）

- ◆旧正月に向けて新型コロナウイルスの集団感染から守られるように
- ◆新しい年の台中教会の働きが祝福されるように
- ◆地域の平和が保たれるように
- ◆フィリピン（豊田）

- ◆聖書大学の学生たちと先生たちがオンラインクラスでうまくコミュニケーションが取れ、霊肉ともに守られるように
- ◆聖書大学では新年度（2022年8月）から対面授業を計画し、そのための経済的必要と準備を整うように

- ◆事故、事件、怪我、過ち、災害、病気、疫病から家族が守られるように

うに。常喜の網膜静脈閉塞症、恭子の甲状腺嚢胞の回復のために  
香港（鹿島）

- ◆12回目の教会総会や納骨式が行われたことの感謝
- ◆オミクロン株の感染警戒の中で、今年の旧正月（2月1日）の営みが守られるように
- ◆香港の教育や宗教面の自由が維持されるように

- ◆ケニア（豊田就子）
- ◆急なスタッフの感染者上昇の中でも守られ祈られている感謝
- ◆感染者上昇が止められ、各所で
- ◆麻酔科、整形外科の働き人（ルカ10の2）が起これ、主任不在期間が守られるように
- ◆カンボジア（豊田緑乃）

- ◆1月末か2月初めにKCCの次の路線の方向づけを語り合う大切な会議があります。御霊の御支配の下に、霊の一致を見る協議と決定がなされるように
- ◆ヴァンティ師の教会と合併したPPCのクメール語教会の礼拝場が与えられて教会が教会として建ち上がることができるように
- ◆グレッグ師による伝道者再教育の働きが伝道者の霊的、知識的、実践的面に変貌と成長の結果に繋がる働きとなるように。加えて主の御心が豊田のカンボジア行きのすべてになされるように



# 聖宣神学院報



## Immanuel Bible Training College

### 主に知られている幸い

院長 ● 林 正弘

「主よ 人とは何ものなのでしよう。あなたがこれを知っておられるとは。人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたがこれを顧みられるとは。」

(詩篇 一四四・3)

人間は、だれかに認めてもらいたいと願う生きものです。小さな子どもは親に受け入れられていることで安心して成長します。社会でいろいろな人に接していくときに、認められたいとの願いが強くなり、それで頑張る人は少なくありません。行き過ぎると、プレッシャーに押しつぶされたり、だれかに過度に依存したりする場合も

あります。現実はなかなか厳しく、願ったようには認められず、正當に評価されず、かえって誤解されるといった場合が多いのかもしれない。

主の働きにおいても、用いられない、認めてもらいたい、との願いは無意識にでも持つものです。しかし、そこに落とし穴が潜んでいます。主のためと叫びつつ、結局は自分のために働いていることがあるからです。評価されれば有頂天になります。批判に対して過敏に反応し、弁解します。不当な扱いには耐えられません。改めて「人とは何ものなので

しよう」と自らを省みたいと思えます。冒頭の詩篇では次の節に「人は息にすぎず その日々は影のように過ぎ去ります」と記されています。本当にその通りです。そしてそれが分かったなら、へりくだってどんなことでも受け入れられます。しかし、そのような無に等しい者を主が知っておられ、顧みてくださるのです。実に驚くべきことであり、大きな恵みです。たとえだれに認められなくても、主が知っておられるならそれで十分ではないでしょうか。それで安心し、目の前のことに動しむことができるようになります。結果としてその姿を認めてもらえることがあるかもしれません、それはおまけです。主に知られていること自体がこの上ない祝福です。



神学院のキャンパスも久し振りの雪化粧となりました

### 心も体もぽかぽかに 焚き火、いいですよ



田辺寿雄

昨年12月、冬期休講に入っ

ぐのある夜、神学生の皆さんと焚き火をし、一緒に焼き芋を食べました。焼けた芋を二つに割ると、湯気がモクモクと立ち上がってききました。「あつっ」「うまつ」と言いながら、そのホクホクしたおいしさに「焼き芋ってこんなにおいしかったっけ」とみんなが感動して食べました。それから各々温かいコーヒーやココアを飲みながら、焚火を囲んでの団欒をしばし楽しみました。時間が経つのを忘れるくらいに。ひとりで黙ってやる焚火もいいですが、家族や気の合う仲間と一緒に楽しくワイワイやる焚火もまた最高です。

焚火に欠かせないのは薪です。冬期休講中は、空いた時間を見つけては何度か薪割りをしていました。斧の使い方も少しずつ慣れて来て、結構大きな、幹のようなものもなんとか割れるようになってきました。薪の長さを短くするためにはのこぎりを使います。ギコギコと何本も続けて切ると、冬でも汗をかきます。

太い薪だけでは、焚火はできません。中くらいの太さの薪、細い薪、そして、ポキッと簡単に折れるような小枝も必要です。着火は市販の着火剤にライターで火をつけています。その上にまず落ち葉や枯れた杉の葉などを軽く置き、火が燃え移ったら小枝を重ねていきます。パチパチと煙を上げて火が燃え始めたら、それを囲むように薪を置き、その上にさらに少し置く角度を変えながら薪を積んでいき、ゆっくりと全体に火が回っていきます。

焚火からいろいろ教えられます。私たちの信仰の火も誰かと一緒にのほうがいい、より長く燃えるということ。弱くなった火には、火吹き棒で空気を送ると火が元気になるように、私たちにも聖霊の風が必要であること。いろいろな薪や枝が燃えて一つの火となるように、教会にもいろんな人がいて、どんな人でも必要とされていること。消えたように見える火でも、たまった灰の中に小さな残り火が隠れていることがあり、上手に世話をすればまた燃え始めることができるように、死んだように見える教会にも、きつとまだ隠れたところに火は残っているはずだということ。

モーセを引きつけたのは燃え尽きるのではない柴でした。私たちの小さくても燃え続ける信仰の火が、いつか誰かを引き寄せ、温めることができますように。

◆一年を振り返って

主を知り拠り頼む

正規コース 林 眞光まこと

「心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りに頼るな。あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる。」(箴言二・5、6)

2021年も無事に終わり、新しい一年が始まりました。日頃の皆様のお祈りとご支援を感謝いたします。学院の授業も半分ほど終わり年度の締めくくりをしていく時期になりました。振り返るとこの一年間も嬉しかったこと、悲しかったことがたくさんありました。その一つ一つが神様の導きの中になされたことを覚え、その恵みを感謝しています。

その中でも特に嬉しかった出来事は学院で対面の活動が再開したことです。私が入学した2020年はちょうどコロナウイルスの感染が始まった時でした。授業はすべてオンラインでの開催になり、先生や学生と直接会う機会があまりとれない生活が続きました。しかし年度が明けて2021年度になると感染状況も落ち着き、対面の授業や昼食が再開され交わりを持つ機会が増えました。直接関わり

りを持つ中でこの人はこんな人だったんだなと気づいたり、共に励ましあう中で関係が深められていくのが嬉しかったです。

一方で不安なこともあります。新しい年度になると三年生になり残り二年で卒業になります。最後の一年間は教会での実習になるので、学院でじっくり学べる期間は実質一年になります。もともと学びをしてから遣わされた方がいいのではないかと不安になる時があります。

しかし冒頭の御言葉を聞いたときにまず自分のすべきことは主を知り、主に拠り頼むことであると気づかされました。しかし「主を知る」ためには学びをする必要があると思います。これからの学びは知識を蓄えるという目的だけでなく、学びを通して主を知り主の恵みを伝えるために生かせるものになりたいと思います。

神様が私の道をまっすぐにしてくださいと信じて、学びに励み主を知る一年を過ごしたいと思えます。

◆学年末を前に

主にある学びを

感謝して

正規コース 森 徳子のりこ

「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしはあなたがあなたの神だから。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。」(イザヤ四一・10)

入学して、まもなく一年を迎えようとしています。昨今の今頃は、神学院での学びに向けて、自宅療養生活から一転、新しい生活へと舵を切り始めていました。昨年の年頭に下さった冒頭のみことばのとおり、この一年の間、心身ともに強め、お守りくださり、良き学びとお交わりを与えてくださった主に、感謝いたします。

また、背後にあってお祈りくださり、お支えくださり、ありがとうございます。「祈っています」との声に、スーッと力が抜け、温かい思いに包まれました。お会いしたことのない方々の、祈ってくださいといる情景を思い浮かべたことでした。つくづく、ひとりではないことを思います。

この一年の学びをとおして、自身の思いや考え方が整理され、偏りに対しては小石が湖にポチャ

ンと投げ込まれるように気づきを与えられています。かといつてすぐさま修正できるわけでもないのですが、例えば自分のルーツについて、きよめについて、折々に考えています。

手一つをとつても、親指、人差し指、…とあるように、一つの型にはめ込むことはできないと思いますが、足ではない、手に託された使命があり、キリストをかしらとして、それぞれの部分に応じた働きをするために、ルーツは大切で、その上で、自分に与えられた働きを小指なりにしていくのだと受け止めています。主が与えてくださっている学び、頭を柔らかくして吸収したいと思えます。

◆学びに復帰して

橋を渡して

短期コース 矢代ゆう

「たとえ、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。」(イザヤ一・18)

新年1月6日、今日は雪でした。真っ白なスタート。復学を許され、リモートで学びに加えていただいていますことに感謝しております。これまで、多くの助けがありました。同じ教団の視覚障害仲間が

パソコンでの学習方法を教えてくださいました。

新たな出発。これからは先生が前もってくださる資料を音声で読み上げさせて予習もできます。リモート授業開始時刻には、先生が自宅まで声を届けてくださり、目を使えない私には、病床が教室に早変わり。クラスメイトの声が遠くで寂しいけれど、共に祈る声で、私たちは一つ所にいるのです。

思い返せば入学1年目「目は治らない。遮光するしかない。」との医師からの宣告。内心では絶望していました。召命24年目でやっと入学が許されたのに、見えないのではどうにもならない。それはまるで、共に食事をしているのに、私には使える箸がないようなものでした。

そこにコロナ禍。そして思いがけない橋が架かったのです。リモート授業という選択肢は、痛み止め治療の副作用の苦しみからも、私を解放してくれました。自宅療養によって、痛み止めが不要となったのです。難病患者にとって、環境変化に適応するのは困難です。特にトイレの問題は深刻です。そのような緊張から解かれ、さらにリモートでしか教会の交わりに参加できない方々に、福音を届けたいと願わされています。

これまで、病との戦いにより多くの方々にご迷惑をおかけしました。この年、心新たに主よりきよめをいただき、学ばせていただきたく願っております。



図書館に大型のワゴンが設置されました

いま神学院では……

### 日記の人、ウエスレー

教師●藤本 満



ウエスレーは日記の人です。オックスフォードの学生時代、ジェレミー・テイラーの『聖なる生と聖なる死の規則と実践』を読んだときに電流に触れたような激しいショックを味わいました。

「神は、私たちのすべての言動だけでなく心の思いをご覧になる。」この認識が日記を付ける切っ掛けとなり、なんと89歳で天に召されるまで書き続けます。

自分だけの記録のために記された日記と、やがてメソジスト運動が始まってその活動の弁明のために出版される『日誌』は区別されず。

何百年もの間、速記で記された彼の日記は解説不可でした。ところが、今から30年ほど前、今日のウエスレー研究の指導的な立場にあるハイツェンレーターという学者が、当時、博士論文の資料集めのためにロンドンに行きました。ふと立ち寄った古書店で、ウエスレーのホーリークラブの仲間であったベンジャミン・インガムの自筆の日記を発見します。そこにウエスレーの使った速記

記号の規則が記されていたのです。それを用いて、ハイツェンレーターは、ウエスレーの日記の解説に成功しました。ホーリークラブでは自分たちの日記を同じ速記記号で書くことによって、互いに日記の交換をし、互いに霊的なアドバイスをしていました。

さて、この段階で、多くの方々には、そんな厳しいメソジストの習慣は自分には無理だと思ってしまう。もちろん無理しなくてもいいのです。しかし、原則を理解すると励みになります。

文具店に行かれると、また年の初めですから、あらゆる種類の手帳や日記帳が売られています。その中で、やや大版でさまざまな工夫がなされている手帳を購入し、使い方を自分なりの方法でマスターし、そのことをお勧めします。仕事・家族・余暇・人生、目標や計画を記すだけでなく、振り返りをします。今の手帳は、その日、週、月間と見渡せるようになっています。

この手帳技術をマスターしてはじめて、仕事も家庭も人生もある程度管理が可能になります。なおかつ様々な忙しさに振り回されるだけではない、地に足のついた生き方へと繋がっていきます。

実はそうした努力の積み重ねが、霊的な成長には必要なのです。そのような注意深さと、全体を眺め、振り返る努力こそが、課題に囲まれた私たちの信仰が守られるために、また次の成長のために必要とされるということです。

### 同窓生の近況

61期生

八王子教会●中西正道



「主のあわれみが尽きないからだ。」  
(哀歌三・22)

卒業して3月で9年目を迎えます。1年目に心筋梗塞を発症し手術を受けました。退院して雪道を歩き、葉のせいで膝の出血が止まらなくなり再入院。2年前にはめまいで入院。印刷業で徹夜し、眠らないで仕事をしたついで強制的に寝かされ、「神様こんな所で帳尻を合わせなくても」と思いましたが、主のあわれみは尽きないからだと納得。その間、いろいろな先生方に助けを頂きました。

昨年1月より10か月間、緊急事態宣言により休会とし、説教原稿を送ることで、信仰歴の浅い人には信仰のレクチャーとなり、いろいろな人から感想を頂き、不思議と教育・伝道の間となりました。いまは讃美歌を味わっています。福音讃美歌468番「キリストの愛 我に迫れり」の二番の歌詞「備なき我さえ召して、キリストは良きおとずれを世の人に携え行けと手を置きて遣わしたまえり」この賛美のように、語るに値しない者を召してくださったと、恵みへの感激を胸に過しています。

### 神学院スタッフ：恵みの想起

#### 神学院の森のどんぐり

ベテルハウス管理 赤石桂子

秋口に本館からベテルハウスへ降りて行く階段の所でどんぐりが落ちて来る音が聞こえます。ポツン、ぽたり、コロコロとそれはリズムカルで様々。神学院ご奉仕を始めた頃はその音が何の音か分からずに耳を澄ませ、それがどんぐりの落ちる音と気付いてビックリ。どんぐりの落ちる音が聞こえる静けさに改めて神学院の森の深さを思い直し、その中の神学生の学びの祝福を感じながら森を歩きながらお祈りしました。

しかし昨年の秋はコロナ禍と新たな献身神学生が入学されない現実に、どんぐりの落ちる音はイエス様の悲しみの音、涙の落ちる音に聞こえてしまいました。続べ治めたもう主のお力とご愛とみわざを信じ、希望と共に祈りしてお祈ります。

### 学苑だより



● 全国からクリスマス・カードや年賀状が送られてきました。感謝します。

● 1月6日(木)、横浜でも雪が降り、神学院のキャンパスも一面が雪に覆われました。

● 3週間の冬期休講を終えて、1月11日(火)から後期の授業が再開されました。各授業と神学生の学びのために祈りください。

● 隔週で水曜夜にフェロシップが行われています。今は、献身の証しを一人ずつ順番にしています。共に祈り合う時でもあり、心温まる時間です。

● オミクロン株の感染拡大のため、再び食堂での週2回の昼食が休止となりました。大変残念ですが、再開の時を待ちたいと思います。

● 寒さ厳しき折、春の到来と献身者の興起どちらも待ち望まれる、ここ学院です。

### サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。12月の会計報告をさせていただきます。

12月分支援実状  
〔今年度毎月献金目標〕  
¥1,500,000

教会員による「神学院サポート献金」  
¥1,138,530  
教会団体による「神学院献金」  
¥697,375  
合計 ¥1,835,905  
その他の献金(一時・特別)  
¥77,000

・振替：00230-0-10138

# 公報

## 本部通達

「主は、昼は、途上の彼らを導くため雲の柱の中に、また夜は、彼らを照らすため火の柱の中にいて、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。」(出エジプト記二三章21節)

教会総会を越えて新年度の歩み出しをされた各教会に主の導きと祝福をお祈り申し上げます。新型コロナウイルスの変異株による感染が急拡大する中です。またこの冬は格別な寒さと雪との戦いが続いています。厳しさの中にある諸教会を覚え、主のみ助けが豊かにあるようにお祈りいたします。

■本部 (公議)

8日(火) 教団運営委員会(オンライン会議)

15日(火) 会計監査(オンライン会議) (2021年決算書監査)

■総務局 (第77次年会について)

3月23日(水)・24日(木)に開催の年会についてはオンライン開催となります。先月下旬に年会招集状と参加申込書を郵送いたしました。

例年通り、各教会の先生方には事前に年会資料を送付いたします。質問等がある場合は、3月8日(火)までに、本部・総務局長宛に書面にてお送りください。(メール・FAXも可)。

①年次準備折衝会 オンライン  
第1回 2月14日(月) 14時〜15時(当務・阪下謙師)

②第2回 3月14日(月) 20時〜21時(当務・浜田耕三師)

信徒代議員、神学生の方々も参加可能です。後日、祈祷課題とZoomのURLをお知らせいたします。

③年次プログラム  
23日(水)  
自由参加祈祷会 9:30〜  
開会礼拝/議事会1 10:00〜  
議事会2/3 13:30〜  
聖会 16:30〜  
期別祈り・交わり会 19:30〜  
24日(木)  
自由参加祈祷会 9:30〜  
組織改革検討チーム報告/チーム別フォーラム 10:00〜  
宣教会 14:00〜  
按手礼/任命式 15:10〜  
\*聖会、宣教会、按手礼、任命式はYouTubeで配信します。一般信徒の方も視聴可能です。それ以外のプログラムはZoomによる限定となります。

▽「境内地 境内建物の登記簿本」の送付にいつもご協力いただいておりますことを感謝申し上げます。会堂建設等で提出後に変更のありました教会は、速やかに最新の簿本提出をお願いします。本部にて、被包括法人の最新の状態を把握しておく必要がありますので、ご協力をお願いします。

▽教団ドメインのメールアドレス

@immanuel.or.jp / @ign21.comを使用の先生方で、新規登録や変更・廃止、メンバーリストの希望などがありましたら本部総務局の佐藤信行師までご連絡ください。

▽単位法人格を持つ教会は、毎年の法的義務として、毎会計年度終了後4か月以内(本教団の場合、通常4月末まで)に、宗教法人の事務所へ備え付けの書類の写しを、各都道府県所轄庁に提出するようにお願いします。この場合、事務所へ備え付けの書類とは、役員名簿、財産目録、収支計算書・貸借対照表(作成している場合)、境内建物(財産目録に記載されているものを除く)に関する書類、事業に関する書類(行っている場合)となります。

提出の際、同じ写しを本部総務局宛にもご提出ください。よろしくお願ひします。

④教職按手礼試験について  
教職按手礼試験の受験希望者は、3月末までに総務局へ申請書をご提出ください。(申請書は、教団HPトップページ左欄、総務局書類のタグからダウンロードできます)。相談は各地域担当ブロックアドバイザーまで。なお、長期にわたり教職試験の職位にあられる牧師夫人の方々には、別にご案内を差し上げます。

⑤世界宣教局  
▽1月13日(木)午後、局の運営委員会を持ち、今年度の活動方針などについて話し合いました。

▽豊田宣教師は、半年間のサバティカル休暇を終えて、ウェスレアン聖書大学でのご奉仕を再開されました。

▽宣教聖日DVDに関するアンケートにご協力くださり、ありがとうございます。36教会がご回答くださいました。寄せられたご意見を今後活かしていきたいと思ひます。

▽これまで6年間、局の会計を担当して下さった小笠原兄(中目黒教会)は、今年3月をもって退職されます。新しい会計担当者へのスムーズな引継ぎのためにお祈りください。

▽教団HP・世界宣教局のページに、ロビン・ホワイト宣教師のHPへのアクセス・リンクができました。漫画を用いた伝道ミニストリーです。ぜひ一度ご覧ください。

⑥教育部  
▽教育部・生涯学習課  
▽第3回若手牧師研修リモートミーティング  
日時 3月3日(木) 午後1時半〜4時  
テーマ 「教会運営について」  
▽有志による読書学び会  
きよめの良書を用いて、少人数のグループによる読書学び会を春頃から開催予定。

⑦教育部・信徒教育課  
▽信徒向け聖書講座(無料、各教会で自由に利用可)。  
内容 「使徒の働き」の学び(第14回目まで公開中)。  
講師 岩上敬人師(丁E A総主事)

⑧青少年部・中高生課  
▽「とにキャン」フェスティバル(Noomで開催)  
日時 3月29日(火)  
▽聖宣神学院  
▽入学審査は3月7日(月)、出願は2月21日(月) 必着です。受験を考えておられる方は本誌1月号掲載の「聖宣神学院入学案内」を読み、間違いのないように手続きを行ってください。

▽神学院祈り会は、1月末に1、2月合併で行いました。  
▽ベテルハウス宿泊利用再開はもう少し先になります。

# 消息報告



(詳細は富士見台教会 野田師)  
▽過去の信徒聖書講座  
内容 「主の祈り」(藤本満師、第6回目までアップ中)  
(青少年部・青年課)  
▽ビルド(月に一回開催)  
2月27日のテーマ「LGBTについて②」  
ゲスト 藤本満師  
(青少年部・中高生課)  
▽「とにキャン」フェスティバル(Noomで開催)  
日時 3月29日(火)  
▽聖宣神学院  
▽入学審査は3月7日(月)、出願は2月21日(月) 必着です。受験を考えておられる方は本誌1月号掲載の「聖宣神学院入学案内」を読み、間違いのないように手続きを行ってください。

▽神学院祈り会は、1月末に1、2月合併で行いました。  
▽ベテルハウス宿泊利用再開はもう少し先になります。

▽大宮教会は寄付により駐車場を取得し、昨年12月に所有権移転登記が完了しました。

▽峯尾京子師(別府教会)のお父様、保月邦博様(別府教会員)は1月11日、91年の地上生涯を終えて召天されました。ご遺族に天父の慰めをお祈りいたします。  
教報PDFパスワード 6398

発行人 岩上祝仁 編集者 寺村秀嗣  
発行所 東京都千代田区神田駿河台一〇〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部  
印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇〇CCビル  
新生宣教団 定価 一部110円(税込) 郵便振替 001107133609